

# 桃井観城先生 略年譜

- 明治四十年 一月十三日 兵庫県津名郡西光寺桃井啓  
(一九〇七) 了上人の長男として生る。幼名は秀次郎。
- 大正 五年 四月十一日 大阪谷町妙法寺にて鎌廣  
(一九一六) 日宰上人について得度す。僧名は観城。
- 同 十年 四月二日 大本山本興寺に入寺昇堂允  
(一九二一) 可。
- 同 十一年 四月十日 本門法華宗学林入学。  
(一九二二)
- 同 十四年 三月九日 本門法華宗学林卒業。三月  
(一九二五) 十四日 僧籍登録。四月十日 立正中  
学第四学年編入。
- 同 十五年 三月二十五日 同学第四学年修了。四  
(一九二六) 月一日 立正大学予科第一学年入学。
- 昭和 四年 三月二十日 同学予科第三学年修了。  
(一九二九) 四月十日 立正大学文学部史学科(国  
史専攻) 入学。
- 同 六年 九月十日 英語科中等学校教員免許状  
(一九三一) 取得。石田茂作指導『平安時代史籍年  
表(刊本の部)』編纂に従事。
- 同 七年 三月二十日 立正大学文学部史学科卒  
(一九三二) 業。五月〜八月 立正大学史学研究室  
副手。八月七日 大本山本興寺におい  
て新説免許。八月二十六日 本門法華  
宗七等教師第一級編入。九月一日 京  
都市紫野中学校教諭(十年十二月迄)。
- 同 八年 一月二十日 歴史科中等学校教員免許  
(一九三三) 取得。四月一日 禅門高等学院教授(十  
年十二月迄)。九月三十日 日本史・東  
洋史高等学校高等科教員免許取得。
- 同 九年 十一月四日 宮内省より正倉院御物拝  
(一九三四) 観を許可される。正倉院文献、特に経  
典について研究。

- 同 十一年 二月二十日 京都恵昇院住職となる。  
(一九三六)
- 八月一日 嘱託布教教材研究員。日承王資料の集録に従事する。
- 同 十三年 日承王御墓御治定について研究。  
(一九三八)
- 同 十五年 二月二十一日 嘱託本能寺門末寺史編纂委員。五月一日 日本門法華宗学林教授。  
(一九四〇)
- 同 十六年 五月二十八日 嘱託法華宗教学刷新研究員となる。  
(一九四一)
- 同 十八年 一月四日 嘱託法華宗機関誌『立正』編輯長。  
(一九四三)
- 同 十九年 三月三十一日 法華宗興隆学林教授辞任。京都高等手芸女学校教諭(二十一年八月迄)。今年から三年間本能寺文書の探求と集録に当たる。  
(一九四四)
- 同 二十一年 五月一日 京都柳桜学苑を創設し初代苑長に就任。九月一日 兵庫県西光寺住職。  
(一九四六)
- 同 二十二年 六月二十二日 近畿布教区常任布教師。  
(一九四七)
- 同 二十三年 八月一日 兵庫教区宗務所長となる(二十五年五月迄)。今年から三年間伏見宮文書の探求と集録に当たる。  
(一九四八)
- 同 二十六年 四月一日 兵庫県立津名高等学校教諭(四十五年四月迄)。  
(一九五一)
- 同 三十一年 十二月一日 宗門史編纂主任委員(平成元年三月迄)。  
(一九五六)
- 同 三十八年 六月一日 法華宗教学研究会所員。  
(一九六三)
- 同 四十七年 八月十五日 権大僧正に昇叙。  
(一九七二)
- 同 四十八年 五月二日 法華宗宗会議員に選出され、宗会議長となる(五十二年五月迄)。  
(一九七三)
- 六月一日 教学審議会委員。

同五十八年 四月一日 法華宗教学研究研究所所长（六  
（一九八三） 十年九月迄、以後名誉所員となる）。

八月一日 宗宝・宗門史跡審議会委員  
（平成二年一月迄）。

同 六十年 六月一日 教学審議会委員（同年九月  
（一九八五） 迄）。

平成 元年 十月一日 審査局員（同四年一月迄）。  
（一九八九）

同 九年 六月十六日 遷化。法寿九十一歳。  
（一九九七）